津小学校に赴任してからは、毎週金曜日の稽古会に参加し、再び西山先生からご指導いただいている。

このように、剣道から遠ざかる時期も何回かあったが、いろいろな人たちの支えと励ましを受けながら、どうにかこれまで継続することができた。そして教士七段にまでなることができた。七段位は、趣味で剣道を続ける者にとって最高の到達点だと思っていたが、西山先生から稽古をつけていただきながら、「天草からぜひ八段を出さなければならない」とハッパをかけられると、だんだんとその気にさせられてしまう。基本技、特に面打ちに磨きをかけ、足腰の鍛錬、素振りなどに励むとともに、攻めの気持ちと何事にも動じない精神力を培うべく稽古に励んでいきたいと思っている。

昨年、編集長の出身地である鹿児島県で稽古を続けておられる先達お二人に寄稿をお願いした。そのお一人に今回久しぶりに再度寄稿をお願いしたところ、快く原稿を寄せて頂いた。筆者は現在七十四歳で倦まず弛まず稽古に精励されご当地随一の稽古量を誇る、元薩摩川内市剣道連盟会長で、編集長は時々墓参りの途中に道場にお邪魔し稽古をお願いしている。何回掛かっていっても稽古の違いを知らされる。曰く、気攻め、理合、虚実の間、等々、大変勉強になっている。今回かなり辛口の内容だが、「良薬口に苦し」と言う。会員諸氏の稽古や指導の参考にして頂ければ幸いである。

稽古

薩摩川内市　盛岡　博通

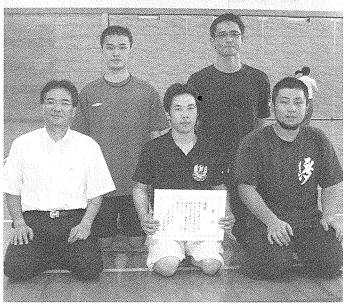
稽古、古（いにしえ）を稽（かんが）える、という意味だそうだ。

現在の剣道では、稽えるどころか自己流、自分流で終わってしまっているような気がしてならない。稽古の段階においても、習・工・錬の位が三磨の位（編集長注：柳生新陰流に伝わる極意の一つ）だが、田舎に居て、良師に出逢って習うことも簡単なことではない。たとえ先輩から基本的なことを教えてもらっても、現在は工夫することをやらない、つまり自己流に終わっている。道場では他の人の稽古を見て、見取り稽古も出来ない人も多いようだ。全然見取（盗）り稽古など丸で念頭にないように思う。それでいて子供達や若い者には一流な話をやけにしたがる人の多いこと。稽古の途中、息も上がっている相手に対して理屈を並べても聞けそうにないし、息を整える事がやっとなのに、こうやって打つの打たないのと、相手にとってははなはだ迷惑な話だろう。昔の先生方は理屈でなく実際我々にしっかりした打突で有無を言わさない稽古に終始していた。

工夫の次には鍛錬をやることだが、その鍛錬が思うようにいかない。試合前、審査前にのこのこ道場に出て来る。その結果思わしくない者ほどその後道場から足が遠のく。その繰り返しで剣道が良くなるだろうか。良好な結果だけを求めて、結果が出るまでのプロセスに手を抜いている。稽古の中には懸かり稽古という苦しい稽古法がある。ところが現代剣道に於いてはこの稽古を嫌がり、自分より上手であろうと下手であろうと五角稽古をやっている。高段者や高齢者になっても相手に懸かる気持ちを捨ててしまっては腕は上がらないし、稽古も面白くなくなるだろう。

又、稽古の中で元に立つ人が打たれるのを嫌がって、頭を振ってよけてみたり、やたら竹刀で受け止めているだけだったり、あれで面白いのだろうかと思う姿をよく目にする。打たれるのも立派な稽古だと思うし、そこから又反省も生まれ、明日につながるように思うのだが。先週たまたま母校を訪ねた。そこに色々な高校剣士が来て練習試合をしていた。先ず驚いたことは、蹲踞を正しくやれていない。剣道に最も大事な足の踏み方が出来ていない。それぞれの指導者の一番悪い癖を生徒はいつの間にか真似をするものだ。特に左足の膕（ひかがみ：膝の裏あたり）が曲がっているのは、もうどうしようもない癖になっていた。そんな足なのに監督は、それ打てやれ打て、と大きな声で応援（？）をしている。三分間の時間に約五十発くらいの打ち合いだ。ところがそんな試合はやるが、稽古となったら、打たない。相撲でいう「見合って、見合って」と立っているだけで、避けよう、かわそう、の稽古内容で、いざ試合となったら機関銃のように手を出す。一本になるような有効打突は一発もない。指導者も上体だけを見守っている。足腰で打つべき剣道がそこにはない。左足の踏み方を正せばいつでも簡単に打てるし、勝てると思うのだが、監督自身がそれをやれないから生徒が出来るはずがない。このような状況にあるのが全国各地の稽古風景ではなかろうか。個性と癖とは根本的に違うことを再度考えて稽古に取り組んでもらいたい。自分も満点な稽古は出来ないから道場に出掛けている。やる気のないところに稽古は出来ないし、面白くもなさそうだ。稽古がいかに楽しいか、面白いか、それは各人が課題を持って、明日の進歩を願い信じて、損得抜きで心から稽古に取り組み、先人のご苦労を考え、感謝することが、先ず第一の稽古方法だと信じてやまない。

県民体育祭・荒尾大会開かる



平成二十二年九月十九日（日）荒尾市にて第六十五回熊本県民体育祭が開催された。本連盟からは天草市チームと上天草市チームが参加した。善戦健闘したが惜しくも緒戦で敗れた。選手、役員、応援の皆さん大変お疲れ様でした。来年への捲土重来を期して稽古に励みましょう。出場選手は次の通りでした。

チーム名	天草市	上天草市
監督	小川　圭三	山下　隆明
大将	松尾繁八郎	山下　誠悟
副将	鶴本　徹	田中　大心
中堅	大久保慎介	中田　静志
次鋒	木下ゆとり	市野衣美紗
先鋒	松下　綾	田中　一徹
補員	濵﨑　武志	福田　裕一

第11回県剣道連盟会長旗争奪剣道大会開かる

平成二十二年十月二十四日（日）大矢野町総合体育館で開催された。本連盟チームは惜しくも予選リンク突破ならず惜敗した。小学生から一般の選手・役員・応援の方々、お疲れ様でした。

チーム名	天草A	天草B
監督	山下　隆明	小川　圭三
先鋒	濵﨑優希奈（牛深小）	岡部　栞奈（大楠小）
次鋒	入江　陸（二江小）	小川　蓮太（二江小）
八将	中村　楓（有明中）	坂口　紗季（有明中）
七将	魚住　梢晋（有明中）	松﨑　智也（有明中）
六将	香月　宥公（天高倉岳校）	門岡　夏美（天草高校）
中堅	猪原　雅仁（天草高校）	鶴戸　智公（天高倉岳校）
四将	市野衣美紗	木下ゆとり
三将	中田　静志	松下　綾
副将	迫内　寛之	鶴本　徹
大将	緒方　勇人	古川　龍司